

AGAROOT
ACADEMY

～司法試験過去問答練ゼミの全容大公開～

1. はじめに

■ 司法試験過去問答練ゼミとは？

- 司法試験論文式試験の過去問のうち，教育効果の特に高い，一度は書いておくべき良問の演習・答案添削（採点基準付き）・講義を通じて，司法試験で要求される物事の考え方，答案の書き方を身に付ける講座
- 通信（添削あり）クラスと通信（添削なし）クラスの2クラス

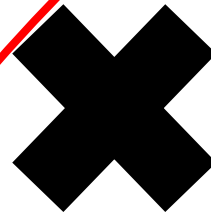
■ 何故，司法試験過去問答練ゼミを開講するのか？

- 司法試験の本質は「点取りゲーム」
- 1点でも多く稼ぐためには何が必要か？

1. はじめに (続き)

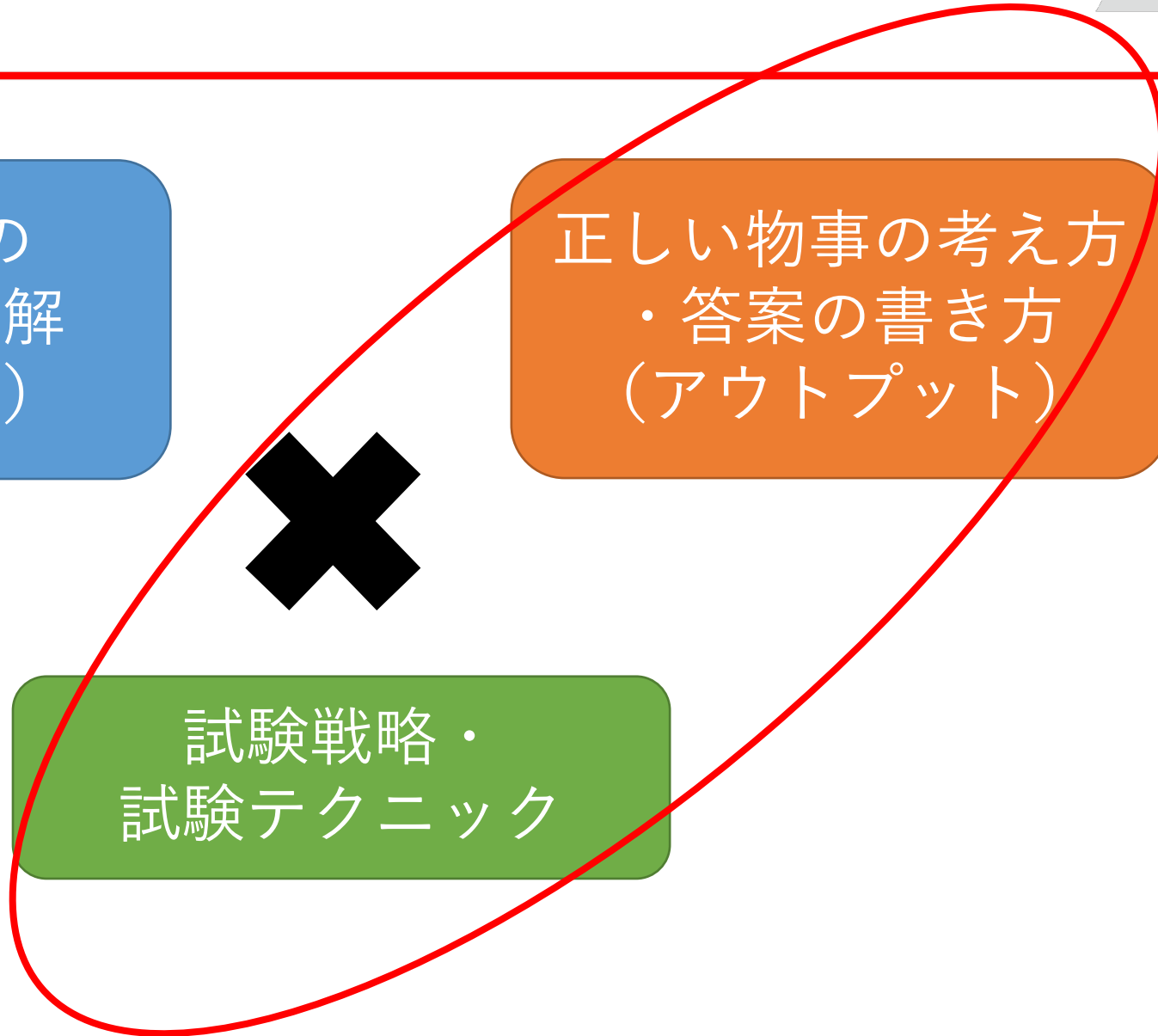
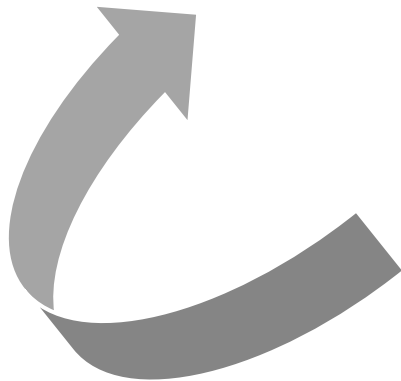
基本的知識の
深く正確な理解
(インプット)

正しい物事の考え方
・ 答案の書き方
(アウトプット)



試験戦略・
試験テクニック

波及的効果



1. はじめに（続き）

- 「正しい物事の考え方・答案の書き方」
 - 現在の司法試験は実務家としての能力を問う傾向
 - 「正しい物事の考え方・答案の書き方」とは、実務家としての物事の考え方、文章の書き方
 - 実務家の仕事は「法律を用いて」「個別具体的な事件を解決すること」
 - 法的三段論法 etc...

- 「試験戦略・試験テクニック」
 - ある程度類型化・パターン化された「引き出し」
 - 答案構成の技法 etc...

1. はじめに（続き）

■ 司法試験過去問答練ゼミの対象者

- 勉強量を積み重ねても思うように成績の伸びない複数回受験の方
- 運に左右されない安定的な実力を付けて次回の司法試験に確実に合格したい方
- 他の受験生と圧倒的な差をつけて超上位合格したい方
- 要は、来年の司法試験に合格したい全司法試験受験生が対象（現在の成績の良し悪しは問わない）

2. 本講座の特徴

■ 採点基準付きの懇切丁寧な添削（通信（添削あり）クラス限定）

- 司法試験の問題は単純に難易度が高いため、信頼できる解答・解説が少なく、自力で答案の出来を評価することは困難
- 平成25年度司法試験を総合4位という超上位で合格し、どのような答案が試験委員に評価されるのかを知り尽くした担当講師が、受講生の答案を懇切丁寧に添削・コメント
- 担当講師作成のオリジナル採点基準を用いて採点（自身の客観的な実力や立ち位置を把握しながら学習を進めていくことが可能）

※採点基準は、担当講師が独自の基準で作成したものであり、本試験における採点結果と一致することを保証するものではない。

2. 本講座の特徴（続き）

- どんな問題にも応用可能な「思考方法」を指導
 - 過去問と全く同じ問題は出題されなくても，過去問で問われた論点が再度出題されることや，過去問と同じ「思考方法」が再度出題されることは多々あるので，その「思考方法」を身に付ける（問題と解答を「1対1対応」にしない）
 - 担当講師が，受験生時代にメソッドとして確立し，講師としての指導経験を通じて磨き上げた，極めてシンプルかつ明快でわかりやすい「思考方法」を，余すところなく伝える

2. 本講座の特徴（続き）

- 司法試験論文過去問の中から「思考方法」が身に付く良問をピックアップ
 - 本講座で扱う問題は、担当講師が、司法試験論文過去問の中から、特に教育効果が高い、「思考方法」が身に付く良問をピックアップしたもの
 - 回を重ねるにつれて、徐々に難易度が上がるように問題が指定されているので、本講座をこなすことで、着実に実力を向上させることができる

- 「思考方法」を事前講義
 - 各年度の問題の解説講義に先立ち、「各科目の思考フロー」という総論的な講義を実施するとともに、実際にその「思考フロー」に従って1年度分の問題の解法を実践

2. 本講座の特徴（続き）

■ 担当講師作成の解答例

- 身に付けた「思考方法」を適切に答案上に表現する術を学ぶため、講義で扱ったすべての問題について、担当講師自らが全面的に作成した解答例を提示（完全解（8頁超）及び現実解（8頁以内））

■ 全受講生の答案及び採点表を配付（通信（添削あり）クラス限定）

- 上位答案になるためには出題趣旨等をどの程度網羅する必要があるのか、合格者の平均レベルに達するためにはどの程度までできていけばよいのか、合格ラインに乗るためには最低限どこができていなければならないのかなど等の実践的なレベル感を把握できると同時に、自身の相対的な立ち位置も明らかにすることが可能

3. 本講座の受講方法

- 事前講義（「各科目の思考フロー」）を聴く
 - 事前に正しい「思考方法」を理解しておくことで、初回の答案作成からそれを実践することができる（目的意識をもって答案を作成するのとはしないのとでは、学習効果が段違い）
- 実際に時間を図って問題を解き、答案を作成する
 - 本番と同じように、六法と問題文以外は何も見ない、制限時間（2時間）を厳守（制限時間を過ぎて書いた部分は、その旨を明示）
 - できれば、本番よりも厳しい環境に置くと良い（制限時間を実際よりも短めに設定する等）

3. 本講座の受講方法（続き）

■ 答案を提出する

- オンライン添削システムで実施
- 配信日以降提出締切日前であればいつでも提出可能

■ 解説講義を聴く

- 出題趣旨等を踏まえた正確な解説とベストな解答例を提示するだけでなく，出題趣旨等に書かれていない筋についても必要に応じて言及
- 講義の中で，適宜講師から受講生に質問を投げかけていくので，答えを考えてみると学習効果が高まる（答えがすぐに思いつかないときは，動画を一時停止して考えてみると良い）

3. 本講座の受講方法（続き）

- 出題趣旨等を熟読した上で，他の受講生の答案や再現答案を読む
 - 本試験の現場で解答例と同じレベルの答案を作成することは不可能
 - 試験委員が要求しているレベルを認識した上で，現実問題としてどの程度解答できればよいのかを把握する必要がある
 - 他の受講生の答案や市販の再現答案集を用いて，上位答案になるためには出題趣旨等をどの程度網羅する必要があるのか，合格者の平均レベルに達するためにはどの程度までできていけばよいのか，合格ラインに乗るためには最低限どこができていなければならないのかなど，現実の受験生のレベルを分析

4. 本講座の詳細

- アガルートアカデミーウェブサイト又はカスタマーセンター
https://www.agaroot.jp/shiho/tokubetsu/kakomon_zemi/
<https://www.agaroot.jp/customer/consulting/>（受講相談フォーム）
<https://learning.agaroot.jp/customer/ec/contact>（問い合わせフォーム）
- サンプル動画
 - Youtube及びアガルートアカデミーウェブサイトで公開中